

## 公開シンポジウム「ビスホスホネート治療による顎骨壊死の現状」

1. 主 催 日本学術会議 歯学委員会病態系歯学分科会
2. 日 時 平成20年4月22日（火）13：00～17：00
3. 場 所 日本学術会議 講堂
4. 共 催 （社）日本口腔外科学会
5. 後 援 医歯薬アカデミー、NPO 法人アジア対口腔がん協会（AFOC）

### 6. 次 第

開催趣旨 ビスホスホネートは骨粗鬆症治療、がんの骨病変などに幅広く用いられており、わが国の対象患者は数百万人に上り、特に高齢者治療に欠かせない薬物といわれております。しかしこの薬物治療により顎骨壊死を生ずる可能性があることがわかり、にわかには大きな社会問題化することが懸念されています。そこでこれに直接関連する内科、整形外科など多岐にわたる専門領域と歯科、口腔外科との間で問題点を共有し、現状を把握して、その治療、予防を模索することを目的とするシンポジウムの開催を企画しました。乖離している医科と歯科の臨床の溝を埋めて共同作業をするよい機会でもあり、学術会議がとりあげるべき喫緊の課題と考えています。

同シンポジウムでは、ビスホスホネート治療と顎骨壊死について講演およびに討論を行い、国民一般の理解を高めることを目的としております。

(1) コーディネーター 瀬戸 暁一 鶴見大学歯学部長、日本学術会議第二部会員

#### (2) 演題・演者等

- ・「ビスホスホネート：有用性と顎骨壊死」基調講演  
大阪大学歯学部長、日本学術会議第二部会員 米田 俊之
- ・「わが国における骨粗鬆症の現状と問題点」  
健康科学大学学長 日本学術会議連携会員 折茂 肇
- ・「癌の骨病変に対するビスホスホネート治療と顎骨壊死」  
徳島大学医学部長 松本 俊夫

- ・「ステロイド性骨粗鬆症治療と顎骨壊死との関連」  
近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科教授 宗圓 聰
- ・「ビスホスホネートによる顎骨壊死の診断と予防の提案」  
鶴見大学歯学部歯科放射線科教授 日本学術会議連携会員 小林 馨
- ・「ビスホスホネートによる顎骨壊死の臨床病態と治療ガイドライン」  
兵庫医科大学歯科口腔外科教授 浦出 雅裕

#### 座長

- ・ 埼玉医科大学ゲノム医学研究センター客員教授  
日本学術会議連携会員 日本学士院会員 須田 立雄
- ・ 鶴見大学歯学部長 日本学術会議第二部会員 瀬戸 暁一

- 1) 開会挨拶 (5分)
- 2) 講演 各演題 30分 (合計3時間)
- 3) ディスカッション50分
- 4) 閉会挨拶 (5分)

#### 7. その他

事前のお申し込みは必要ありません。

定員は300名で、当日先着順となります。